

## 『一〇〇万回生きたねこ』を読んで

弘前市立天成小学校

小堀和華

わたしは、小さい時からこの本を持つていました。おばあちゃんが買ってくれたそうです。読んで聞かせてもらったり、絵を見てねこの真ねをしたりしていました。今回、感想文を書くためにはじめて自分で全部読んでみました。そうしたら今まで何回も読んでもらっていたはずなのに、ちがう発見がたくさんありました。

この本は、何回ものねこの人生を書いていました。どうして一〇〇万回なのかなあと題を見て思つていましたが、それほど言いあらわせないくらいたくさん、このねこがけいけんしたということなのだろうなと思いました。書き方が全部同じで読みやすかつたです。文章と絵が組み合わさつていて、イメージしやすかつたです。絵はまるで絵のぐでかいたばかりのようないじみどかがあつて、何回もさわつてみました。でも、でこぼこしているところはありませんでした。どんどん次が読みたくなつて、あつという間にさい後のページでした。

ねこは、だれにかわれてもしあわせではなかつたから、一回もなかなかつたし、なつとくがいかないから何回も生き返つたのかなと思います。でものらねこになつた時、はじめて自分の人生で自分のことが大すきだという気持ちがわいて、生きていることを実感していました。たくさんめすねこにすかれて色々なアプローチをうけたのに、全く自分にきよう味がなさなめすねこにひかれ、びっくりしました。白いねこのどこがすきだつたのかなあ。今までかわってきたかい主のことはみんなきらいで、自分のことが一番すきだつたのに、白いねこに会つて、自分よりもすきになるということがすごいへんかだなと思いました。そして今まで一度もないことがなかつたのに、白いねこが死んで自分が死ぬまでなきつづけるのは、本当にすごいと思いました。それだけ白いねこがすきだつたんだなと思いました。

さい後にもう生き返らなくなつたのは、白いねこがいないところに生き返つても仕方がないと思ったからかなと感じました。

した。白いねこに会えて、相手をすきな気持ちやしあわせ、かなしみが分かつてよかつたなど思いました。ねこはもう生き返らないけど、さい後にとてもしあわせな人生を送れてわ

たしもうれしくなりました。ねこと白いねこは、天国でしあわせにしていると思います。